

2014年3月期第1四半期業績概況

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2167

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

第1四半期の実績と通期見込

単位: 億円

	第1四半期			第2四半期(累計)					通期				
	実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
加工食品	490	38	8%	990	85	9%	959	31	2,000	160	9%	1,943	57
水産	157	3	2%	330	17	5%	330	0	666	29	5%	650	16
畜産	186	1	0%	371	5	1%	359	12	740	-15	-2%	715	25
低温物流	402	20	5%	807	25	3%	802	5	1,616	52	3%	1,605	11
不動産	12	1	5%	23	-0	-1%	23	0	48	1	1%	48	0
その他	7	-7	-52%	14	-13	-49%	16	-2	36	-22	-38%	36	0
調整額	-46	4	-	-93	8	-	-93	0	-186	14	-	-177	-9
売上高合計	1,208	58	5%	2,442	126	5%	2,396	46	4,920	219	5%	4,820	100
加工食品	-1	-16	-	15	-15	-51%	21	-6	58	-2	-4%	65	-7
水産	1	2	-	2	3	-	2	0	4	3	466%	4	0
畜産	-1	-2	-	-1	-3	-	3	-4	3	-2	-43%	7	-4
低温物流	21	1	3%	40	-2	-4%	40	0	83	-3	-3%	82	1
不動産	6	0	1%	11	-0	-4%	11	0	23	0	1%	23	0
その他	-0	-1	-	1	-1	-35%	1	0	4	-0	-7%	4	0
調整額	-2	0	-	-3	-2	-	-3	0	-5	-5	-	-5	0
営業利益合計	25	-17	-40%	65	-20	-23%	75	-10	170	-9	-5%	180	-10
経常利益	25	-17	-40%	62	-20	-25%	73	-11	162	-10	-6%	173	-11
当期純利益	13	-22	-63%	42	-21	-33%	45	-3	100	2	2%	105	-5

注: 見込は今回発表した見込で、前回見込は2013年5月7日に発表した見込

ROE	8.2%	-		8.6%	-0.4%
EPS	35円	2円	5%	37円	-2円

1. 売上高は主力の加工食品と低温物流が引き続き伸長し増収。
2. 営業利益は加工食品の円安による原材料・仕入コスト増が響き大幅減益。
3. 当期純利益は投資有価証券売却益が減少したことなどにより減益。
4. 通期見込は1Qの進捗を反映し売上高を上方修正、営業利益・当期純利益を下方修正。

円安による調達コスト増が響くが、価格改定は計画通り進捗

単位: 億円

	第1四半期				第2四半期(累計)				通期				
	実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
売上高 計	490	38	8%	990	85	9%	959	31	2,000	160	9%	1,943	57
加工食品													
家庭用調理品	140	7	5%	275	12	5%	267	8	567	24	5%	551	16
業務用調理品	215	9	4%	421	11	3%	419	2	868	23	3%	864	4
健康価値	10	-4	-27%	25	0	0%	25	0	49	8	19%	49	0
その他	124	26	26%	269	62	30%	248	21	516	105	25%	479	37
営業利益	-1	-16	-	15	-15	-51%	21	-6	58	-2	-4%	65	-7

注: 見込は今回発表した見込で、前回見込は2013年5月7日に発表した見込

調理冷凍食品の販売は引き続き好調に推移。営業利益はチキン加工品を中心とした円安による原材料・仕入コスト増が先行し大幅減益。

1. 家庭用調理品: 主力の米飯類、チキン加工品などが好調に推移。
2. 業務用調理品: チキン加工品、春巻などの販売が増加。
3. その他: 前年度のイノバジアン・クイジーン社の買収などにより増収

■主要施策の進捗・課題への打ち手

1. 第1四半期の営業利益は期初計画をやや下回る。第2四半期以降、価格改定等を順次実施するが、円安の進行や原材料のコスト増を反映し通期見込を下方修正。
2. 船橋市で家庭用調理品を主体とした新工場が2014年3月に稼働予定。
3. GFPTニチレイでは第3の加工ラインが計画通り6月から本格稼働。

水産は販売価格が好転し増益、畜産は収益性の悪化により減益へ

単位: 億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第1四半期			第2四半期(累計)				通期					
		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	157	3	2%	330	17	5%	330	0	666	29	5%	650	16
	営業利益	1	2	-	2	3	-	2	0	4	3	466%	4	0
畜産	売上高	186	1	0%	371	5	1%	359	12	740	-15	-2%	715	25
	営業利益	-1	-2	-	-1	-3	-	3	-4	3	-2	-43%	7	-4

注: 見込は今回発表した見込で、前回見込は2013年5月7日に発表した見込

【水産】

えびやさけ・ますなどの販売価格が好転。北方凍魚などの取扱数量の減少を吸収し増収増益。

■主要施策の進捗・課題への打ち手

引き続き在庫水準の適正化を図るとともに、付加価値の高い加工品の拡販に注力する。

【畜産】

輸入チキンを中心に取扱数量は全般的に減少。消費者の低価格志向が続くなか、仕入コストは上昇するも販売価格への転嫁が十分に進まず減益。

■主要施策の進捗・課題への打ち手

引き続き在庫管理を徹底するとともに、こだわり素材などの加工品の販売強化により収益性の改善を図る。

国内事業は計画通りに推移、海外事業も業績改善が進む

		第1四半期			第2四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
低温物流	売上高計	402	20	5%	807	25	3%	802	5	1,616	52	3%	1,605	11
	物流ネットワーク	223	5	2%	444	-1	-0%	444	0	885	1	0%	885	0
	地域保管	118	2	2%	244	4	2%	244	0	482	11	2%	482	0
	海外	58	13	29%	114	21	22%	109	5	231	42	22%	220	11
	その他・共通	2	0	2%	5	1	19%	5	0	18	-1	-7%	18	0
	営業利益計	21	1	3%	40	-2	-4%	40	0	83	-3	-3%	82	1
	物流ネットワーク	9	-1	-6%	16	-4	-19%	16	0	33	-5	-14%	33	0
	地域保管	12	1	5%	23	-0	-0%	23	0	45	-1	-3%	45	0
	海外	3	0	22%	4	0	4%	4	0	9	2	25%	8	1
	その他・共通	-3	0	-	-3	2	-	-3	0	-4	2	-	-4	0

注: 見込は今回発表した見込で、前回見込は2013年5月7日に発表した見込

国内はTC事業を中心に堅調に推移。海外は現地通貨ベースでの業績改善に加え、為替影響も増収に寄与。

1. 物流ネットワーク: TC事業が堅調に推移。営業利益は前年を下回るが計画通り進捗。
2. 地域保管: 滞留していた水産物の減少により在庫率は若干低下したが、依然高水準を維持
3. 海外: 運送需要の拡大に加え、果汁やチキン在庫が高水準で推移。

■主要施策の進捗状況・課題への打ち手

1. 4月に川崎DC、7月に東扇島DC2期棟が稼働。今後想定される東京圏での需給変化への対応や再保管在庫の集約などを進める。
2. 電力料金の値上影響が通期で約6億円へ拡大。節電などの業務改善を更に進め影響を最小限に抑える。

【連結バランスシートの変動要因】

単位：億円(未満切り捨て)

科目	13/6	13/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,306	1,238	68	①
固定資産	1,745	1,740	4	
資産の部合計	3,051	2,979	72	
〔負債・純資産の部〕				
流動負債	1,077	1,006	70	②
固定負債	702	718	△16	
負債の部合計	1,779	1,725	54	
純資産の部	1,272	1,253	18	
(うち株主資本)	1,186	1,188	△1	
有利子負債	1,009	968	40	③
(うちリース債務除く)	798	754	44	
科目	13/6	12/6	増減	
設備投資額	27	21	6	
(うちリース資産除く)	22	14	7	
減価償却費	34	35	△0	
(うちリース資産除く)	24	25	△0	

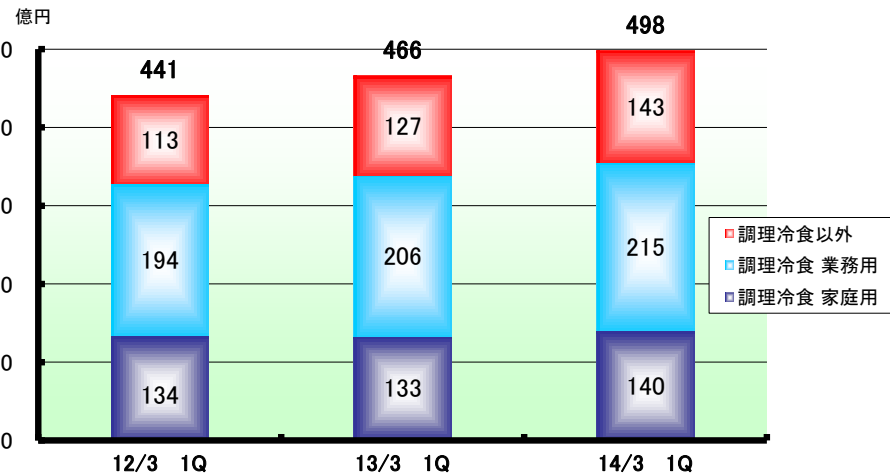
【主な増減要因】

- ① 売上債権＋31、たな卸資産＋36
(季節的要因)
- ② 短期借入資金＋50(営業資金の増加など)
買掛金＋22(季節的要因)
- ③ 有利子負債＋40(営業資金の増加など)

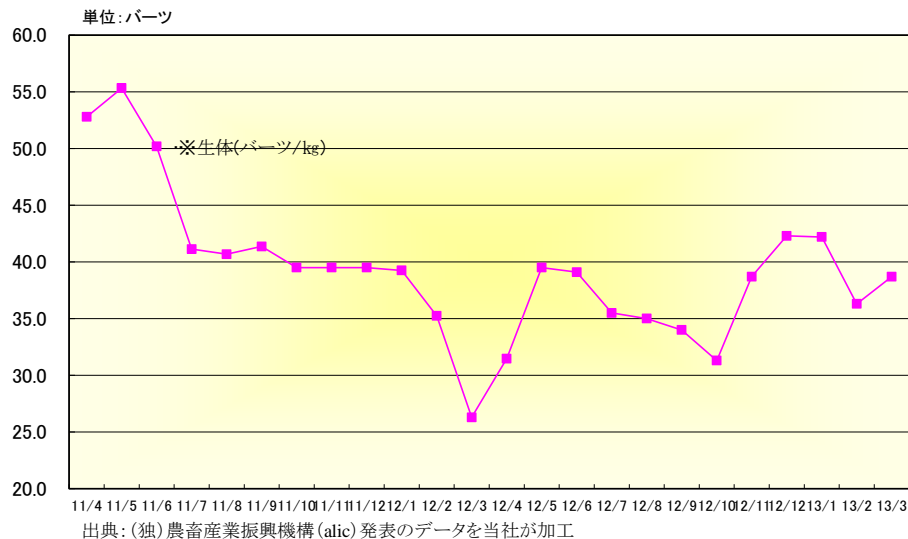
【参考データ①】

冷凍食品売上高の推移

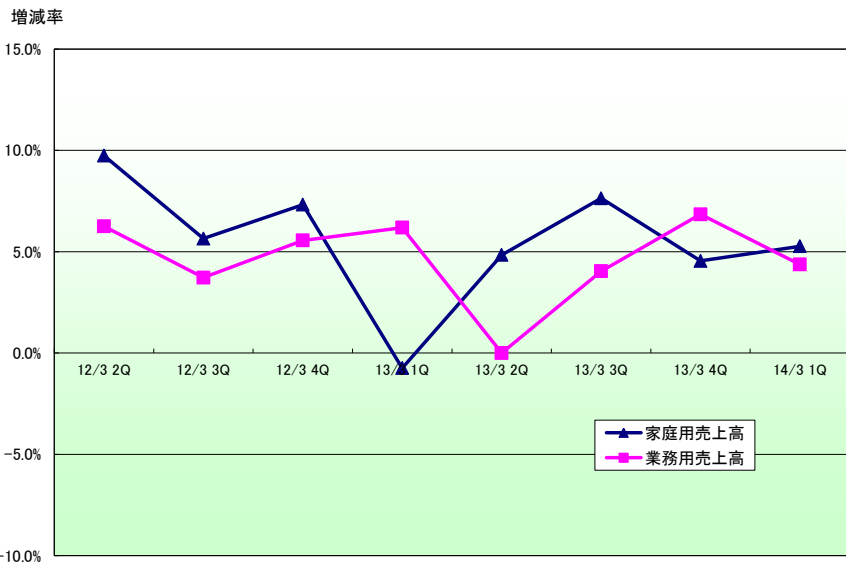
(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



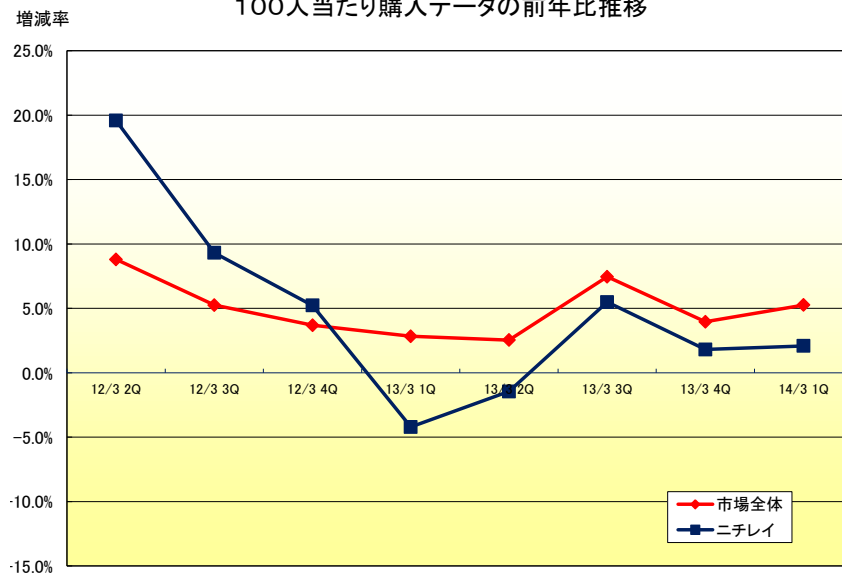
タイ国内鶏肉卸売価格の推移



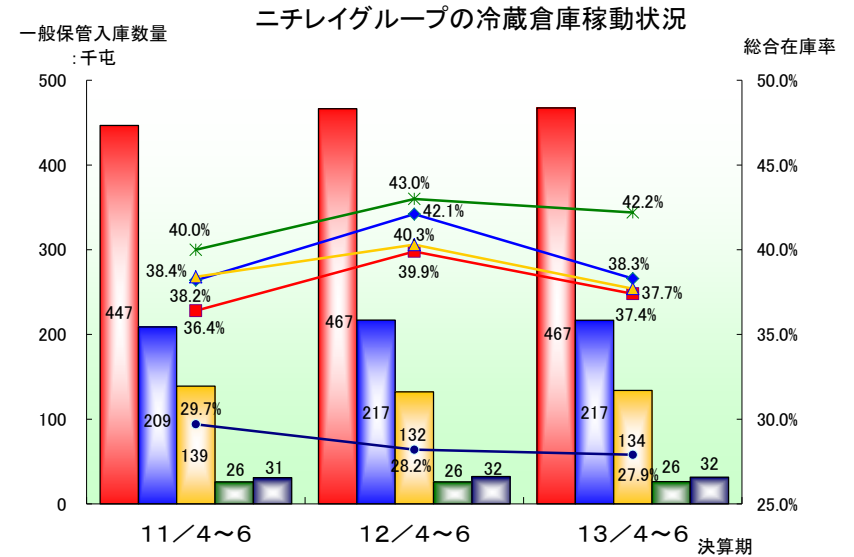
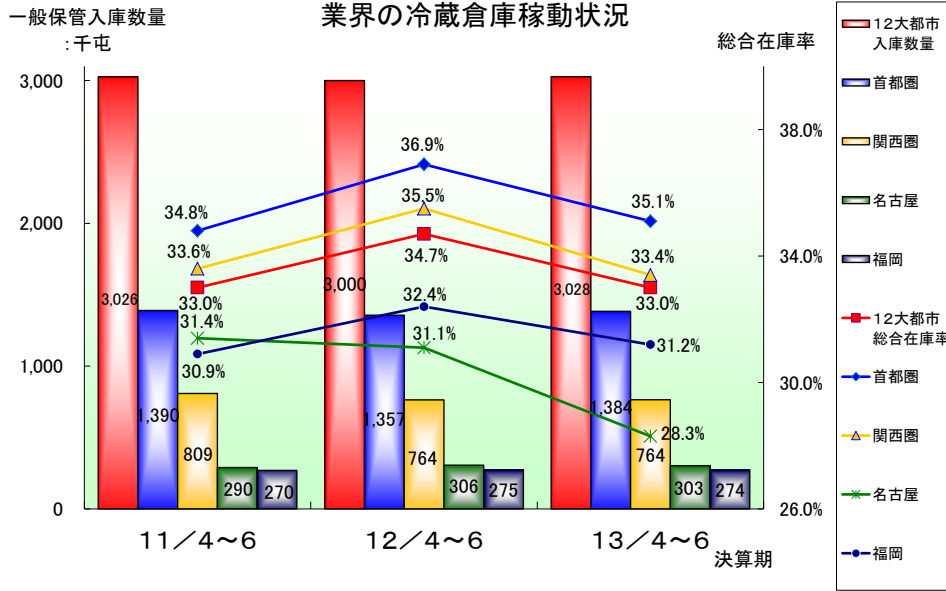
当社の家庭用・業務用調理冷食の売上高前年比増減率推移



SCI -personal 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入データの前年比推移



冷蔵倉庫の稼働状況(業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



注: 在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。